

なまもろーど

The Name Read

ホームページアドレス
https://ranshokai.jp

E-mailアドレス
info@ranshokai.jp

発行所 高岡教区寺族青年会
住所 〒933-0878
高岡市東上関466
西本願寺高岡会館内
発行人 村上 昂文
編集者 広報部
発行日 2024年3月31日

会長挨拶

鸞翔会

第二十五代会長 村上 昂文



令和6年能登半島地震から3カ月が経とうとしています。1月1日午後4時ごろ、石川県能登地方で最大震度7の地震があり、北陸地方を中心に家屋の倒壊・停電・断水・食糧不足など甚大な被害がありました。富山県内においても震度5弱から強の地震があり、混乱の中、多くの被害報告がありました。

鸞翔会は緊急的に支援が必要とされる地域に向けた活動として、1月4日には氷見地区断水地域への配水。1月5日は伏木地区液状化現象による土砂噴出被害のあった地域で撤去作業に参加。その後、金沢別院への支援物資搬入や珠洲市の避難所への炊き出し、七尾市のお寺へ倒壊した鐘楼堂の撤去作業に参加するなど微力ながら活動を続けてまいりました。

現地へ向かう道中、倒壊した家屋や地割れや隆起、崩落した道路、またそれらに対し懸命に復旧作業にあたる方々の姿が目端々に留まります。

3カ月が経とうとしている今なお避難生活を余儀なくされ、先行きが見通せない生活を送られている方々の現状を目の当たりにし、被害の大きさと、想像を絶する厳しい状況がある現実を痛感させられます。

現在、様々な支援団体や個人でも活動をされる方々がおられる中、私たちが鸞翔会もできる範囲で、一日でも早く日常を取り戻せるよう、引き続きお互いに支え合いながら活動を続け、この難局を乗り越えていきたいと思えます。

さて、このような状況の中ではありますが、鸞翔会は8月より発会50年目を迎えることとなりました。親鸞聖人のみ教えを探求し、社会に開かれた宗教的な実践を行う若手の団体として1975年8月24日に読売会館大ホールにて結成集会が開かれました。

同年12月には社会的実践としてチャリティーパーザーを開催。これが今の「ダーナ・バザー」へと変化していき活動に従事し、映画「国境をこえた人々」の制作。法輪せんべい企画販売運営委員会の発足。書籍「共に生きるいのちとはー私の中で動き出すハンセン病問題ー」の出版。阪神淡路大震災、東日本大震災などへ対しての災害救援活動。サークル活動の開始。また福祉作業所をはじめ幅広く地域の方々の交流も深めてきました。

40周年記念事業の際には「輝けお

寺！温故知新」をテーマとして「受け継がれてきたものを大切に守りつつ、時代や社会の変化にも応じた伝道を鸞翔会の仲間と模索し、法灯を絶やすことなく歩んでいきたい」と当時の実行委員長が話されていました。

そしてこの10年は、「オンライン坊主バー」の開催や、国宝勝興寺に於いて「ふるこはんフェス」「ナムナムサング」の開催。ビハラー活動とその精神や理念の探求。雅楽サークルの発足。レクリエーションの充実。フリーペーパー「南無/numb」(ナムナム)の発布。他団体との連携。オンライン会議。ホームページの刷新など、まさに時代や複雑な社会の変化に伴い、様々な活動を続けてまいりました。

50周年記念事業を控え、今も変わらず先輩方より受け継がれているもの。歩み続ける中で変化していったもの。その都度、目まぐるしく移り変わる社会情勢と向き合いながら、仏教が人々の心と与える影響力や、思いや情熱を絶やすことなく活動し続けてきたこと。改めて鸞翔会の根幹を探り、学び、再確認させていただくことが必要になることでしょうか。実行委員長を中心として、過去に学びつつ、変化し続ける社会と敏感に向き合い、これより50年目を迎える鸞翔会の新たな歩みへの足掛かりとなるような1年とさせていただきます。思いを込めて。

井波別院永代経法要出勤

令和5年7月27日

妙寿寺 桃井 善樹

井波別院の永代経法要に出勤させていただきました。往生礼讃（初夜）をお勤めさせていただきました。永代経法要はこの一年間にご往生された門信徒の方を追悼し、仏様のみ教えが永代に伝わるようにという願いを持って勤められる法要です。私のお寺でも永代経法要を毎年お勤めしますが、そのお勤めの度に思うことがあります。それは「仏様の教えがこの先の時代に伝わっていくのだろうか」ということです。新型コロナウイルスの蔓延に伴って、葬儀や法事の形態は簡略化しましたが、新型コロナウイルスの影響が落ち着いてきた現在でさえ、その形態は引き継がれたままであることが多いです。普段、仏教に触れることのないような方が、新しく仏様の教えに出遇うという機会がこの先さらに減っていくことが考えられます。改めて私自身、伝道者として、仏様とこの先を生きる人々とを結ぶ方法を考えていく必要があると感じました。



個人的な感想ですが、私自身、鸞翔会に入会して初めての井波別院での法要でしたが、普段一緒にお勤めをする機会のない方たちとお勤めするということは大変多く、有意義なものであると感じました。また同時に、この法要を通して鸞翔会の皆様とのご縁、この上なくありがたいものだと感じることができました。

寺青レクリエーション教区内BBQ交流会

令和5年9月9日

順向寺 平野 俊

9月9日、高岡教務所の場をお借りして、「寺青レクリエーション」教区内BBQ交流会」が18名の参加で賑やかに開催されました。

このBBQは寺青会員、家族、OB、未入会の方にも参加をお願いし、親睦を深められたらとの思いから、開催されたレクリエーションで私自身も参加させていただきました。



BBQはTEDDY・S BBQ様のケータリングサービスを利用しプロの焼く料理に舌鼓をうちました。またビアサーバーとこだわりのお酒やジュースもあり、参加された方々は皆さん楽しそうに談笑されておられました。私自身もこのBBQ交流会を通して普段お見掛けはするもののお話したことがなかった方とも交流をさせて頂き、有り難いご縁であったと感じています。

コロナ禍でレクリエーションは4年ぶりの開催でした。現在、寺青の会員減少に悩まされております。今後も未入会の方とも交流を計れるレクリエーションを計画し、寺青活動に繋げていけたらと思います。

最後に、場所の提供から会場設営、食材準備など大変だったと思います。この場をお借りして皆様の協力に対して厚く御礼申し上げます。

親鸞聖人を語る夕べ

令和5年10月25日

宝教寺 海老坂 秋彦

10月25日に高岡教務所で行われた親鸞聖人を語る夕べに出勤してきました。個人的には私は今回で三回目の参加になるのですが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、規模を縮小して開催していました。今年は新型コロナウイルスが5類感染症に移行となり、通常通り行うことができました。昨年は正信偈のお勤めでしたが、今年は音楽法要を勤めさせて頂きました。音

楽法要とは、親鸞聖人750回大遠忌法要の際に新たに制定されたものです。仏教を音楽面から時代に即応させようと制定されたそうです。確かに今の現代音楽のほとんどは西洋音楽の影響を受けています。仏教も例外なく、時代の変化にあわせて変わっていくものなのかもしれないと思えた日でした。

音楽法要のお勤めは、エレクトーンの伴奏に合わせて正信偈を称え、女性コーラスも加わり壮大なものになりました。また、新入会員も一緒に参加して若い顔ぶれも多くなり、新鮮さもありました。親鸞聖人を語る夕べに参加してくださいる方々も去年より増え、コロナによって止まっていた時間が動き出したように思えます。



鸞翔会震災支援報告

令和6年1月24日

法信寺 奥高 瑞貴

2024年1月1日(月)16時10分頃に石川県能登地方でM7.6、最大震度7を記録する地震が発生しました。本地震により、石川県能登地方では、大きな揺れにより建物に大きな被害が発生しているほか、市街地では延焼火災、海岸部では津波被害も確認され、被災地では今も懸命な復旧作業が続けられているとともに、多くの住民の方が避難を余儀なくされています。私の住む富山県でも本地震により震度5強を記録し、多くの被害を受けました。中でも氷見地区や伏木地区では建物の崩壊、液状化現象、断水など甚大な被害を受け、生活が困難な状況でした。

私たち鸞翔会では、地震発生直後から安否確認、北陸地方及び近隣地域被害情報の把握に努め、私たちが出来る事を模索し、救援物資の搬入、復旧作業、炊き出しを行いました。

今回、支援活動を通して私の中でも大きな変化がありました。支援物資の搬入や被災地へのボランティアを行う前は、初めての災害支援で緊張や不安もありましたが、現地の方々と関わる中で、「私に何ができるだろうか？」から「被災された方のために、今の私に出来る事を精一杯したい」という気持ちに変わりました。まだ復旧には時間と労力がかかります。引き続き、皆様のあたたかいご支援を宜しくお願い致します。

最後に、このたびの地震によりお亡くなりになられた皆様、さらにご遺族の皆様へ、心から哀悼の意を表します。また、普及作業が続く中、避難生活を余儀なくされている方、不安の中におられる方の心情をお察し申し上げるとともに、一刻も早く平穏な日々をお過ごしになれますようお願いしております。 南無阿弥陀仏



実践運動研修会

令和5年12月23日

長光寺 織田 朋希

年の瀬12月23日に、2023(令和5)年度実践運動研修会が行われました。遺族との向き合い方を題材に、鸞翔会前会長・糸岡組宝性寺住職初瀬部真亮氏にお話をいただき、その後グループディスカッションを行いました。

初瀬部さんはなぜ自分が住職となりここにいるか、といった人生経験を語られました。若くして前住職を亡くされ住職として身を置くこととなったこと、

京都に旅立ち僧侶としての勉学を進めながら週末には法務の為帰ってくる往復の日々を過ごしたこと。私はその立場であつたならどれほど苦しい思いをしただろうかと、考えさせられるお話をした。その後、テーマである遺族との向き合い方、お通夜や葬儀での経験を話されました。赤ちゃんを亡くされた遺族の話、辛くなり涙を流してしまつた話、僧侶としては何度も経験している通夜や葬儀は遺族にとつては大切な時間であるためルーティン化してはならないと思つていること等、一つひとつのお話が真摯に伝わってきました。

その後のグループディスカッションは3班に分かれて行い、各班経験や思いがあつたようで盛り上がりつつ感じていました。各班の意見でも同じように、「一回きりのことである為、作業的にしないよう心がけている。」「寺と故人の思い出を話してあげるのほうがいいのではないか。」「通夜布教では話題を余り変えず、一番大事にしていることを話す。繰り返し同じことを話すことによつて自分の芯が固まるのではないか。」「納棺に立ち会うことで故人が遺族にどう思われていたか、感じる事が多い為、納棺にはできるだけ立ちあつた方がいい。」等様々な意見が交わされました。

最後に初瀬部さんより総評が行われ、会員たちの意見に大変同意をしておられました。お通夜は何を話すかは問題ではなく遺族と寄り添う気持ちが大切である、と大先輩の僧侶より教えられた。向き合う、時には僧侶としての衣を脱いで人と人との人間関係の構築が必要ではないだろうかとのことでした。

初瀬部さんのお話は、経験から語られていることばかりでしたので、これから寺を担っていくであろう青年会員たちの刺激となつたかと思ひます。ご講師をはじめ、参加いただいた皆さまと尊い時間を過ごせましたこと感謝いたします。



浄青僧本山総参拝

令和6年2月5日

光照寺 公文名 智

2月5日(月)に浄青僧本山総参拝が、コロナ禍での中止を挟み4年ぶりに開催されました。

北京パラリンピック金メダリストでプロ車椅子ランナーの伊藤智也氏をお迎えした研修会では、勝負の枠を超えたライバル選手とのエピソードとして、アテネ大会のレース中に優勝候補のカナダ人選手の転倒を誘発してしまったこと、そのカナダ人選手が伊藤氏を叱責するどころか、むしろ攻めた走りを褒めてくれたこと、4年後北京大会での再会を約束したその選手が2年後に亡くなつてしまったことなどを語ってくださいました。

伊藤氏が「大いなるゆるし」と名付けたカナダ人選手の転倒後の対応が、自分を世界一の選手に押し上げ、そして今も「彼の心が僕を僕たらしめている」「彼の生き方が僕の指針となつている」と語る伊藤氏の講演を聞き、短い紙面では十分に伝えきれませんが、凝り固まつた自分の心に新たな視点を与えていただいたように思います。異分野の方のお話は時にとても刺激的で、仏教との化学反応が起きることがあります。今回の研修会もそれに近いような感覚を覚えました。しばらくは、「大いなるゆるし」という言葉を心の片隅に置きながら生活してみようと思います。

また、加盟団体の方々と日々の再会や新たな出会いも大変刺激的なものでした。この日に打ち解けあつた山陰教区薬法会のメンバーが高岡への研修旅行を計画しておられます。オンラインではあり得ない人と人との繋がりがまた活発化していきそうです。





雅楽サークル

代表 麻生 裕善

2023年度は雅楽サークルにとつて、例年になく忙しい年になりました。4月に勝興寺での「ナムナムサンガ」のオープンングセレモニーをはじめ、広済寺演奏会、龍谷高校演奏会、2023年度寺院女性会連盟研修会「雅楽に親しもう」と、善興寺様における大法要「デイサービスいちごいちえ」における演奏会、千久寺様における大法要、そして最後に12月に開催された「氷見西組慶讃法要」といった、たくさん行事において演奏させていただきました。このように多くの研鑽の場を与えていただき、お声がけをくださった皆さまには感謝申し上げます。

改めて振り返ると、私自身全くの素人から始めて、このように雅楽を通して様々な活動に参加させていただいたこと。またここまで幅が広がっていくと

は、2015年の雅楽サークル結成当初には想像もありませんでした。メンバーと過ごした時間は有意義で、自分にとって大きな財産となりました。これは、雅楽サークル結成当初よりご指導、お育てくださった先輩方、また現会員メンバーの協力なしにここまで続けることはできませんでした。改めて心より感謝したいと思います。

2023年度を以て鸞翔会から卒業となりますが、今後とも変わらず参加していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

雅楽サークルの通常の活動としては、毎月一回の練習、他にもサークル会員独自で企画し、色々な活動をしています。日本最古の楽器に触れてみませんか。未経験の方も体験だけでも構いませんので、ご興味のある方はお気軽にお声掛けください。

フットサルサークル

代表 麻生 裕善

報恩講などの忙しい時期を除いて、月一回練習をしています。このサークルの参加者は未経験の方も多く、寺青現会員のみならず寺青OBの方も多勢参加して下さっています。フットサルを通して世代間や組を超えた幅広い交流に大きな魅力があります。

かねてより延期されていた、浄青僧

カップ全国大会は4年ぶりに大阪教区「大阪友の会」さんの担当で開催される運びとなりました。

寺青OBの水上さんより代表を引き継ぎ、気付けば寺青退会の年となりました。

これまで全国大会では3度の優勝を経験しました。向かう所敵なしかと思いきや最下位という辛酸をなめることもありました。北海道から福岡までいろんな土地で、フットサルそつちのけでメンバーの皆さんとお酒を飲んだことも、今では懐かしい思い出です。ですが、これからも体が動く限り参加したいと思っておりますので、お誘いのほどよろしくお願ひします。

もともと鸞翔会に入会する前にこのフットサルサークルに参加し、気づいた時には寺青会員になっていました。おかげでたくさん先輩や後輩に出会うことができ、その出会いが自分にとっては大きな糧となつて今日に至ることができたように思います。

普段の法務から離れて一緒に汗を流しませんか。フットサル未経験、会員以外の方も大歓迎です。体験だけでも構いませんのでご興味のある方は是非とも鸞翔会までご連絡をお待ちしております。

新入会員の紹介



養楽寺 菅田 万里子さん

富山教区水橋組養楽寺の菅田万里子と申します。ご縁があり高岡教区の寺族青年会でご一緒させて頂くことになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。



明德寺 畠山 直聴さん

わくわくお楽しみます。よろしくお願ひいたします。



西照寺 吉井 虹稀さん

新湊組の吉井と申します。寺族青年会に入ってきたばかりで色々わからぬことありますがこれから頑張っていけますのでよろしくお願ひいたします。

新入会員募集・ホームページ・公式SNS

寺族青年会（鸞翔会）では新入会員を大募集しています！気軽に参加してみませんか？



ホームページ(NEW)
https://ranshokai.jp



Facebook
https://www.facebook.com/
ranshokai/



Instagram
https://www.instagram.com/
ranshokai_takaoka/



Twitter
https://twitter.com/ren_
namnam/

法輪せんべいのご案内



平素より法輪せんべいをご鼯頂いただきありがとうございます。法輪せんべいは、射水市の萬松堂本舗さんで、一枚一枚丁寧に手焼きされ、袋詰めされています。味は上品な甘さで、硬さもちょうど良く、お茶はもちろん、コーヒーや紅茶にもよく合います。お好みでモナカのようにアイスクリームやあんこ、生クリーム等を挟んでもおいしくいただけるかと思ひます。食べたことのない方は是非一度ご賞味いただければと思ひます。一袋二枚入りとなっており、法要時のお供え、来寺の御門徒さんへのお茶菓子、お茶請けにも最適です。

収益金は、寺族青年会の活動や自然災害被災地支援、または支援活動等に充てられます。

特大 (170袋入)	10,000円
バラ (1組10袋入)	600円

※1組は、桜色5袋・若草色5袋単位での販売です

お申し込み、お問い合わせは
代表番号 050-5587-7708
アドレスはhourin18@gmail.com

退会の言葉



圓徳寺 池内 将貴さん

寺青には9年間お世話になりました。ここで色々な仲間と出会い、共に活動できたことはとても貴重な経験となりました。どうもありがとうございました。



宝性寺 初瀬部 真亮さん

17年間、長い間お世話になりました。思えば仲間や先輩方と歩んだ時間は、自分の青春だったように思ひます。濃密で誠実な寺青活動と、出会ってくれた人たちが、本当に有難うございました。

退会は寂しくもありますが、今後も皆さんの活躍を楽しみに、心より応援しています。また時々声をかけてくれたら嬉しいです。



専龍寺 麻生 裕善さん

年月は早いもので、気がつけば退会年齢となりました。私の記憶が確かなら、約15年間この会にお世話になりました。その間に先輩をはじめ、同級生や後輩たちといった多くの仲間に出遇うことができました。1人では無理でも仲間がいるからこそできることが沢山あるということを知りました。年々会員数は減少傾向にあり、活動も限られてくるとは思ひますが、その時、そのメンバーにしかできないものがあるはず。時には大変なこともあるかと思ひます。その中でも「楽しむ」ことを忘れずに過ごしてもらえたらなと思ひます。この出遇いや鸞翔会での経験を糧に僧侶として精進していきたいと思ひます。長い間お世話になりました。ありがとうございました。



西教寺 梅本 洪道さん

短い間でしたが、ありがとうございました。微力でしたが寺青の活動に参加させて頂きましたが、私自身、副業として介護施設に務めている事もあり、寺青の活動を時々しか参加ができませんでした。

余談ですが、ある日施設で働いていた時のことです、ある利用者は「若い人は財産やよ、若いごんげはん頑張ってよ」と言っておられました。今会は、若い僧侶の組織で、素晴らしいと思ひますので、また何かお手伝いできたらと思ひます。ありがとうございました。

この度も『なまろーど』を発刊できましたこと大変嬉しく思ひます。全てにおいて、快くご協力いただきました会員の皆さまのおかげです。ありがとうございました！

会長挨拶にて記載の通り、鸞翔会は2024年度で50周年を迎えます。今まで多くのことを積み重ねていらしたOBの方々、今なお維持発展を願う現会員の力もあり50年という長い年月を進み続けていったのだと感じております。今後とも皆さまのお力をお借りさせていただくことが多くあると思ひます。精一杯励みますのでその時は是非お力添えくださいますようお願いいたします。

編集後記